

放課後等ディサービス事業における支援プログラム

(事業所における基本情報)

① 事業所名

放課後等ディサービス事業 キッズコミュソレイユ

② 作成年月日

2025年1月20日

③ NPO法人キッズコミュの理念

安定した親子関係を土台にして、人と人との相互作用によって感情・言葉・思考などの発達を促していく。

また、ダイナミックな運動や心から楽しいと思える遊びで、脳全体を活性化し、たくさんの成功体験を重ね、やる気や学ぶ喜びを生み出していく。

④ 支援方針

言語聴覚士等の専門的見地や経験を基に療育支援を行う。長年の経験に基づいた『子ども達が楽しくて夢中になる活動』を通して、脳全体を活性化し、子ども達の運動・ことば・社会性を育てていく。

発達の状態や年齢が似ている少人数の子どもでグループ指導を行うと、お互い刺激を受けて、活性化し発達が促進される。その共同活動の中で感じる一体感はのちの社会性の発達にも繋がっていく。構音指導などは個別で行う。

私たちが考えている子ども達が楽しくて夢中になる活動には、以下の5つ要素が含まれている。

I > 行動が自然と引き起こされやすい状況を設定することで、自発性や能動性が高まりやすい活動

(活動例： 3段のベニヤ板に上を歩いてジャンボマットに飛びつく・ジャンボマットのお山上ってジャンプなど)

II > 目的意識の向上や達成感を味わえる目的操作的活動

(活動例： 箱車に乗って紐引っ張り・ボール投げて缶倒し・スプーンでピンポン玉運び・テニスのラリー・バスケットボールのドリブルとシュートなど)

III > 人とのやり取りを楽しみ、コミュニケーション能力を高める為のコミュニケーション活動

(活動例： カルタ取り・トランプ・問題作り。体験したことの発表など)

IV > 運動能力の向上や強い達成感を味わえるエネルギーッシュな全身活動

(活動例： 縄跳び・大縄跳び・グラグラ綱引き・バルーン相撲・3段のベニヤの上を歩いてジャンボマットに飛びつく・直滑降お山登りとジャンプなど)

V > 共有意識・情緒的バイブルーション・一体感・思いやり・競争・役割交代・駆け引き・切磋琢磨など社会性を育てる他児との共同活動

(活動例： 箱車での紐引っ張りなどの競争ゲーム・ハエ叩きでカード取り、カルタ、トランプなど机上の競争ゲーム・ハンカチ落とし、ドッヂボール、ハンカチ落とし、高鬼、だるまさんが転んだなどの役割交代や駆け引きがあるゲームなど)

<具体的な活動内容の詳細については、ホームページ内の年齢別の活動内容を参照>

ポイント① 1回の指導時間内で、デスクワーク3～4種と運動的な活動を4～6種ぐらいを組み合わせて飽きが生じないように次々提供していく

ポイント② 上記の5つの要素をそれぞれの能力や特性に合わせて組み合わせた活動を用意する

ポイント③ 頭も身体も全部使い切って、持っている能力を最大限発揮させて満足感・達成感を味わえる

以上により、これらの5つの要素がしっかりと含まれている様々な活動を子どもの発達段階に応じて提供する。また、子どもの障害特性や性格に十分配慮し、子ども達の意

思を十分尊重した療育を行っていく。

⑤ 営業時間

9：00～18：00

⑥ 送迎実施の有無

家族のやむを得ない事情がある場合のみ実施しています。

(支援内容)

⑦ 本人支援の内容と5領域の関連性

【健康・生活】IV>が最も関係していて、家族支援の中で日常生活の中の健康状態を把握し、日常生活場面での健康に関する相談支援も行う

【運動・感覚】IV>が最も関連しているが、I>II>III>V>も関連している

【認知・行動】I>II>III>IV>V>が関連している。

【言語・コミュニケーション】III>が最も関連しているが、その他のI>II>IV>V>も関連している

【人間関係・社会性】V>が最も関連しているが、I>II>III>IV>も関連している

⑧ 家族支援

毎回の指導の度に保護者も同席して、一緒に療育を行う中で、積極的に褒めるなど声掛けする。また、その中で子どもの行動の特徴や関わり方などについて相談支援を行っていく。また、年に2回ほど、保護者向けにキッズコミュで行っている活動の意義等について説明会を実施する。きょうだい児は指導室に同席して、活動に参加するか、保護者が見守りを行うか、必要に応じてスタッフが見守りを行う。

⑨ 移行支援の内容

本人が所属している生活や教育の場(保育園・幼稚園等)の指導者と連携するため、当施設での指導場面を見学しての情報交換や電話での情報交換なども行っている。

⑩ 地域支援・地域連携の内容

地域で療育や教育に携わっている関係者及びこれから従事しようとしている人たちが当施設での指導場面の見学を希望される場合、積極的に受けて、情報交換や交流を行っている。

⑪ 職員の質の向上に資する取り組み

個別支援計画を立てるための作成会議・指導前のミーティング・ヒヤリハット・保護者の相談・問題提起などの会議を職員全員で行い、情報の共有を図っている。また、認知・言語・対人関係・脳の仕組み・障害特性に応じた配慮の仕方・対応が難しい事例の取り組み方などについて職場内全体研修を月に2～3回行っている。また、それぞれの職員が外部の研修を受けたい人がいたら、研修費を助成して、研修内容を報告してもらい、全員で共有するようにしている。

⑫ 主な行事

年2回、広い研修会場を借りて、保護者向けの勉強会と子ども達の遊び場を作って交流会を実施している。また、年1回、県立の広い公園で卒業生も含めた全員の遠足（運動会様）を実施している。